

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

アジアで類人猿を研究する

Study Apes in Asia



霊長類(「サル」の仲間)の研究は、私たちヒトの生物学的、進化学的な理解に重要な分野のひとつです。中でも特にヒトに近縁なチンパンジー、ゴリラといったアフリカに住む大型類人猿については、多くの研究が各地の調査地で行われています。一方で、アジアに住む類人猿であるオランウータンとテナガザルの研究は、脚光を浴びることなく、細々と続けられてきました。本報告会では、これまでテナガザルの研究によって明らかになってきた、彼らの意外にも(?)ヒトに似通った社会や、興味深い特徴について、4年間のタイでの研究員生活も含め、紹介いたします。

- ◆ **日時** : 2017年12月14日(木) 17:00-18:00
- ◆ **報告者** : 松平一成氏(東京大学理学系研究科・特任研究員)
- ◆ **コメント** : 菅豊氏(東京大学東洋文化研究所・教授)
- ◆ **会場** : 東京大学 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネット
ワーク
Network for Education and Research on Asia

